

彫刻ワーキング部会の検討状況

令和 5 年 7 月



1. 令和5年度の彫刻WG部会の検討スケジュール

- 令和5年度の彫刻WG部会における主な検討内容は、下記のとおりである。

会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
石彫刻工程 (概要)	造形検討・石膏原型等作成												
	加工・彫刻(急ぎの製作物)			加工・彫刻			加工・彫刻(数年かかる製作物)						
木彫刻工程 (概要)	彫刻材調達												
	下絵・石膏原型												
彫刻WG部会	④ 5/17		⑤ 6/27		⑥ 7月下旬								4~5回
	●4/8 監修：礎盤・天井額木 ●5/10 監修：礎石・地覆石 ●6/1 円覚寺木彫刻事例調査 ●6/20・23 監修：天井額木彫刻 ●6/27 監修：礎石・地覆石、礎盤												
彫刻WG部会 に係る 調査・監修等													

開催日	会議名等	主な検討内容
5/17	第4回WG部会	令和5年度中引き渡し予定の製作物(【No.24】2階 御差床 須弥壇(高欄含む) / 【No.25】2階 御差床 龍柱 / 【No.26】2階 御差床 羽目板 / 【No.28】2階 内法額木 / 【No.29】1階、2階 台御差床 / 【No.30】国王専用階段内部手摺 / 【No.31】2階 外部手摺)の製作方針等の確認
6/27	第5回WG部会	石彫刻関係(【No.8】持送石 / 【No.7】石高欄 / 【No.6】親柱上の獅子 / 【No.5】小龍柱 / 【No.3】大龍柱 / 【No.4】大龍柱の台石)の検討
7/下旬	第6回WG部会	木彫刻関係(【No.15】向拝奥の彫刻物(牡丹に獅子・唐草) / 【No.17】向拝奥の彫刻物(獅子) / 【No.28】内法額木 / 【No.25】2階 御差床 龍柱 / 【No.26】2階 御差床 羽目板)の検討
適宜	その他集まり	作業進捗にあわせて適宜開催予定

2. 石彫刻の進捗状況①（概要）

- 石彫刻及び石工事の進捗状況は、下表のとおりである。

番号	制作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
1	礎盤（向拝の柱の礎盤、礎石含む）	令和5年9月頃	なし（前回踏襲）	製作中
2	礎石（外周柱用/内側柱用/束柱用）	令和5年7月頃	なし（前回踏襲）	国への引き渡し中
3	大龍柱	令和8年4月頃	ねじれの表現など	造形について検討中
4	大龍柱の台石	令和8年4月頃	なし（前回踏襲）	—
5	小龍柱	令和6年9月頃	腹板の数、 ねじれの表現 など	造形について検討中
6	石高欄及び登高欄 親柱上の獅子	令和6年9月頃	獅子の顔及び体の向き、 獅子の造形 など	//
7	石高欄（親柱/束石/地覆石/羽目石/笠石）	令和6年9月頃	なし（前回踏襲）	—
8	持送石	令和6年9月頃	なし（前回踏襲）	—
9	地覆石	令和5年7月頃	なし（前回踏襲）	国への引き渡し中
10	石階段（正面階段1、階段2,3,5,6,7,8）	令和6年9月頃 階段は11月頃	なし（前回踏襲）	—

2. 石彫刻の進捗状況②（7月に国へ引き渡す制作物）

- 【No.2】礎石/【No.9】地覆石は、製作を終え国へ引渡して7/10から搬入・据付を開始している。

【No.2】礎石

- 柱等を立てるための基礎となる部材。
- 外周柱用38個、内部柱用53個、床束用14個の合計105個を製作・引き渡し。



礎石(6/27撮影)



礎石据え付け(7/10撮影)

【No.9】地覆石

- 外周柱礎石の間に外壁に沿って据え付ける部材。
- 254個を製作。
- 6/27に検査及び彫刻WGによる最終監修を実施。



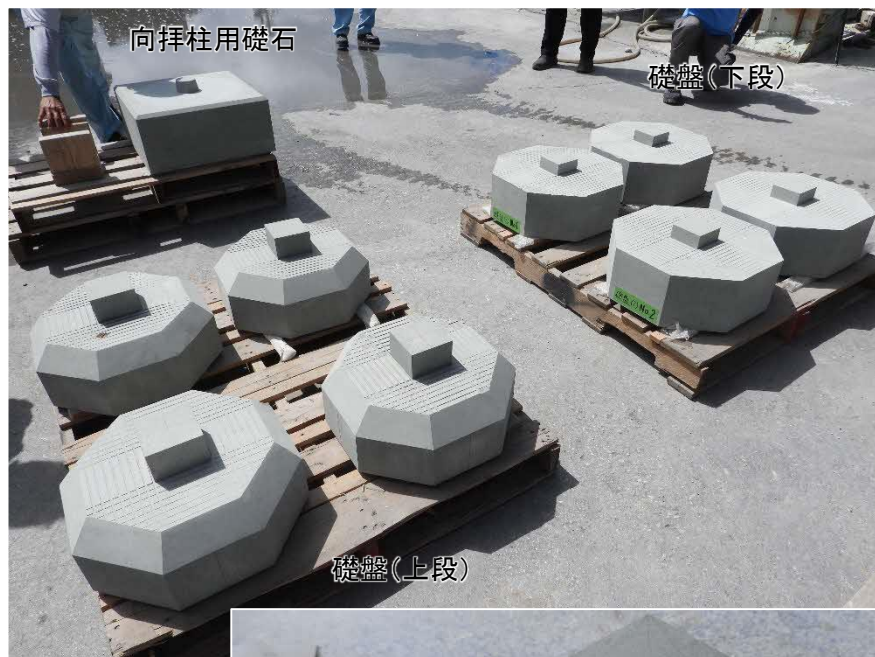
地覆石監修(6/27撮影)



地覆石(6/27撮影)

2. 石彫刻の進捗状況③（製作作業中の制作物）

- 【No.1】礎盤は、荒彫りまでが終了。彫刻部分は6/27に試し彫りの監修を実施。



平成復元時の写真（向拝）（（一財）沖縄美ら島財団提供）

2. 石彫刻の進捗状況④（検討中の制作物）

- 新たな知見が示された、【No.6】石高欄及び登高欄 親柱上の獅子、【No.5】小龍柱、【No.3】大龍柱については、造形について検討中。

【No.6】親柱上の獅子

- 首里城正殿の遺物である可能性が高いとされた石獅子（県立博物館・美術館所蔵）を参考に、今回製作を行うことを確認。
- 参考事例調査として、玉陵調査や写真資料調査を実施し、これらを踏まえて、造形について検討中。
- 埋蔵文化財センター所蔵の親柱の遺物との整合性についても確認中。



県立博物館・美術館所蔵獅子

【No.5】小龍柱

- 新たな知見として、腹板の数や、胴体のねじれの表現方法などについて指摘されている。
- これらを踏まえて、小龍柱の造形及び石膏原型の製作方法等について検討中。

【No.3】大龍柱

- 新たな知見として、胴体のねじれの表現方法などについて指摘されている。
- これらを踏まえて、大龍柱の造形及び石膏原型の製作方法等について検討中。



平成復元時の写真（正殿唐破風）（（一財）沖縄美ら島財団提供）

3. 木彫刻の進捗状況① (概要)

・ 木彫刻及び造作の進捗状況は下表のとおりである。

番号	制作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
11	唐破風 妻飾 (火焰宝珠、蟄股、金龍、瑞雲)	令和6年11月頃	なし (前回踏襲)	—
12	唐破風 懸魚	令和7年1月頃	なし (前回踏襲)	—
13	入母屋破風 懸魚	令和7年1月頃	なし (前回踏襲)	—
14	向拝 透欄間 (牡丹唐草、獅子)	令和6年8月31日	なし (前回踏襲)	—
15	向拝奥の彫刻物 (牡丹に獅子・唐草)	令和7年1月頃	意匠に獅子も含まれていた	下絵 検討中
16	向拝奥の彫刻物 (金龍)	令和7年1月頃	なし (前回踏襲)	石膏原型 作製中
17	向拝奥の彫刻物 (獅子)	令和7年1月頃	獅子のサイズ・姿勢	下絵 検討中
24	2階 御差床 須弥壇 (高欄含む)	令和6年7月頃	親柱・しまこ柱の形状	—
25	2階 御差床 龍柱	令和6年7月頃	なし (前回踏襲)	石膏原型 作製中
26	2階 御差床 羽目板	令和6年7月頃	なし (前回踏襲)	下絵 作製中
27	2階 天井額木	令和5年8月上旬	火焰宝珠の形態	彫刻作業中
28	2階 内法額木	令和6年3月31日	火焰宝珠の形態	—
29	1階、2階 台御差床	令和6年7月頃	なし (前回踏襲)	—
30	国王専用階段 (おちよくい) 内部手摺	令和6年2月29日	なし (前回踏襲)	—
31	2階 外部窓手摺	令和6年2月29日	なし (前回踏襲)	—

3. 木彫刻の進捗状況②（8月上旬に国へ引渡し予定の制作物）

- 【No.27】天井額木は、8月上旬の国への引渡しに向けて、彫刻作業中である。

【No.27】天井額木

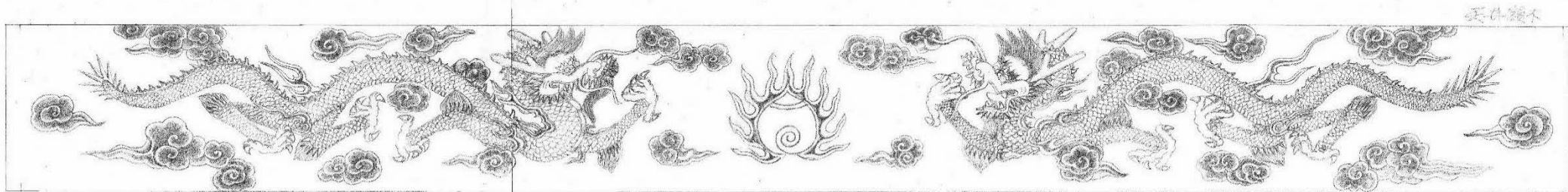
- 2階御差床の柱をつなぐ部材で、両面に彫刻。
- 8月上旬に国へ引き渡し予定。
- 彫刻WG部会で火焰宝珠の形を修正することを決定。形について検討し、国の作業チームにおいて考え方を報告・確認した。（詳細は次頁参照）
- 木材調達後に仕口等加工を行い、6/16から彫刻作業を開始。6/20,23に監修を実施。



天井額木(彫刻)の監修(6/23撮影)



平成復元時の写真（2階 御差床）（（一財）沖縄美ら島財団提供）



天井額木の下絵（西村貞雄委員製作）

3. 木彫刻の進捗状況③ (火焰宝珠について)

【火焰宝珠の形態検討の経緯】

【No.32】垂飾（瓔珞）において新たな知見が示される

- 国提供の仕様参考資料では、垂飾（瓔珞）の火焰宝珠について『御差床之図』（寸法記）にならって修正すると位置付けられている。

染織WG部会で【No.32】垂飾の方向性決定

- 第2回染織WG部会において新たな知見について議論が行われ、火焰宝珠は、可能な限り「寸法記」などの絵柄に近い雰囲気となるようにしたほうがよいとの方向性が示された。

彫刻WG部会で【No.27】天井額木等の対応を議論

- 染織WG部会での方向性を受けて、彫刻WG部会において、垂飾と同様の図案である【No.27】天井額木及び【No.28】内法額木でも、火焰宝珠の修正が必要かを議論した。
- 天井額木・内法額木・垂飾は、下絵等も互いに同じ図柄をベースにしていることから、垂飾において火焰宝珠を見直すのであれば、天井額木等も同様に見直す方向で検討を進めることとなった。

第4回彫刻WG部会で形態について検討

- 唐破風妻飾、天井額木、内法額木、垂飾は、製作された年代が異なり、火焰宝珠の形態も異なっていた可能性があること、天井額木の火焰宝珠はI類に分類される形態であった可能性があることが指摘。→ **天井額木はI類、他と統一しないことを確認。**

国の作業チームにおいて方向性を確認

- 国の第27回彩色・彫刻作業チームにおいて、県の考える方向性について確認。→ **天井額木のI類を了解。**

「火焰宝珠」に形態について

- 今回復元においては、【No.27】天井額木、【No.28】内法額木、【No.32】垂飾（瓔珞）それぞれで、I類～IV類の分類に依る火焰宝珠の形を検討する。
- 詳細な意匠は、天井額木及び内法額木は彫刻WG部会で、垂飾（瓔珞）は染織WG部会で検討する。

安里委員レポート（第4回彫刻WG部会資料）の概要

- 『寸法記』と『御普請絵図帳』に描かれた、唐破風「妻飾」、御差床まわりの「天井額木」・「内法額木」・「垂幕」に描かれた火焰宝珠の形について、琉球で製作された製作物で年代が判明している50事例にもとづいて分析・検討した。
- 桃型火焰宝珠に分類される火焰宝珠を、火焰の長さや形をもとにI類からIV類に分類。
- 実物の写真資料が残されている唐破風「妻飾」において、『寸法記』と『御普請絵図帳』の精度について分析。
- 『寸法記』と『御普請絵図帳』の天井額木・内法額木の表現を分析。

	妻飾	天井額木	内法額木	垂幕
『寸法記』				
制作物				
『御普請絵図帳』				

図8：『寸法記』『御普請絵図帳』と制作物の対応

桃形I類——短焰。火焰は分岐しない。15～18世紀前半。

桃形II類——長焰。火焰は分岐しない。18世紀。

桃形III類——長焰。火焰が分岐する。中位の火焰を長大にして強調する。18世紀後半～19世紀。

桃形IV類——長焰。火焰が分岐する。最下端の火焰を長大にして強調する。18世紀後半。

3. 木彫刻の進捗状況④（石膏原型作製中・下絵検討中の制作物）

- 石膏原型や下絵を作製・検討中の木彫刻のうち、向拝奥の彫刻物関係の製作状況は次のとおりである。

向拝奥の彫刻物 関係

- 平成復元を踏襲して製作する【No.16】向拝奥の彫刻物（金龍）は石膏原型を作製中。
- 新たな知見が示された【No.15】向拝奥の彫刻物（牡丹に獅子・唐草）、【No.17】向拝奥の彫刻物（獅子）については、円覚寺木彫刻事例調査などを踏まえて、彫刻WG部会で下絵を検討予定。



金龍の粘土造形(6/13撮影)



円覚寺木彫刻事例調査(6/1撮影)



平成復元時の写真（正殿唐破風）

3. 木彫刻の進捗状況⑤（石膏原型作製中・下絵検討中の制作物）

- 石膏原型や下絵を作製・検討中の木彫刻のうち、2階 御差床関係の製作状況は次のとおりである。

2階 御差床 関係

- 平成復元を踏襲する【No.25】2階 御差床 龍柱は、石膏原型を作製中。また、【No.26】2階 御差床 羽目板は、平成復元の写真等を参考に下絵を作製中。



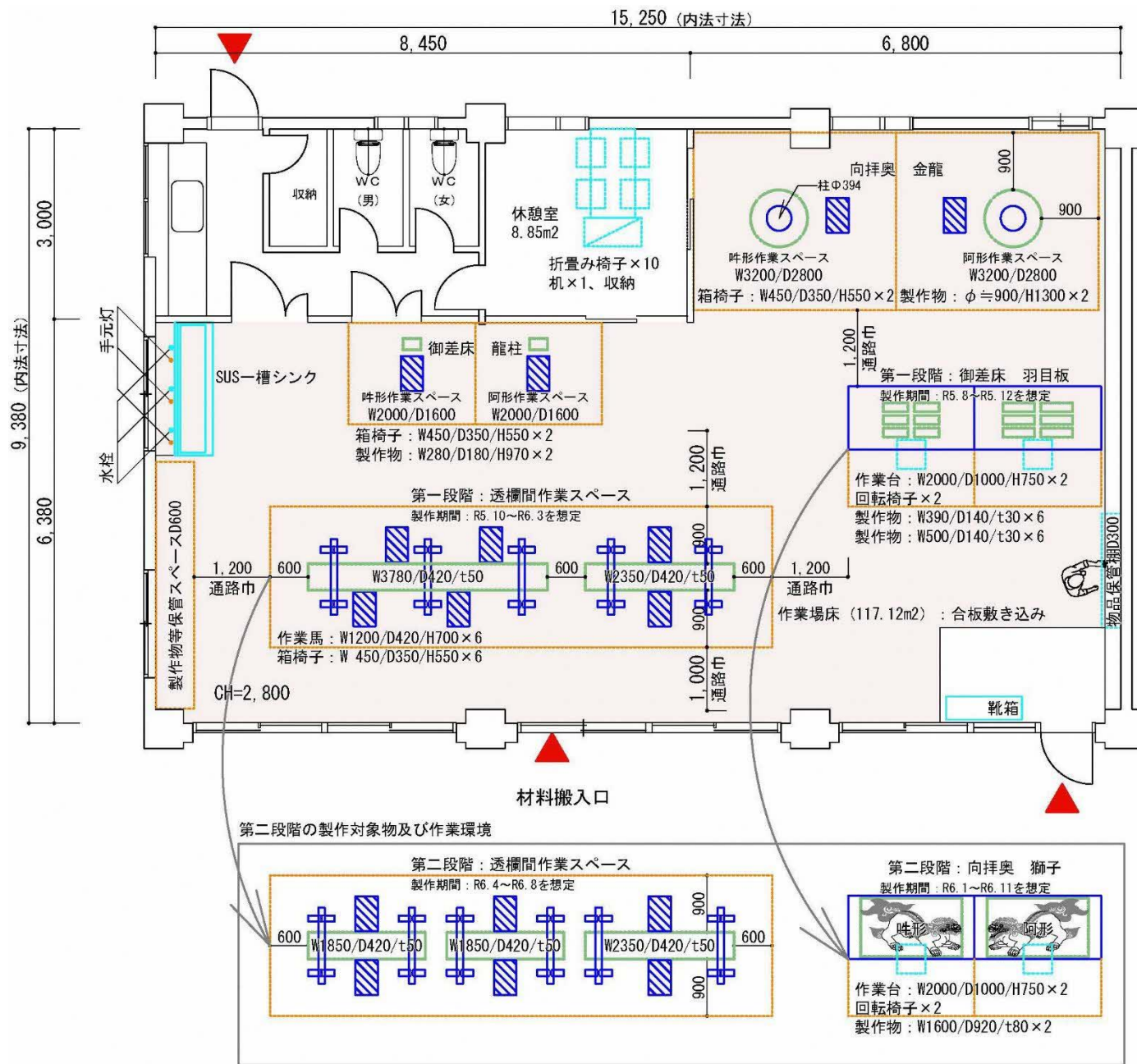
平成復元時の写真（2階 御差床）（（一財）沖縄美ら島財団提供）



平成復元時の羽目板の写真
（西村貞雄委員提供）

4. 木彫刻作業場について

- 県内で作業する木彫刻については、作業場を設置して製作に取り組むこととする。



▲作業場内 (2023年7月3日時点)

- 7月中旬に工事完了後、設備/物品等を順次搬入して、8月前半の供用開始を予定
- 防犯対策のためセキュリティ設備を導入予定

凡例	内容	数量
	製作対象物	図示
	作業・保管スペース	-
	作業馬W1200/D420/H700 (透欄間用)	6台
	作業台W2000/D1000/H750 (羽目板・獅子用)	2台
	箱椅子 (W450/D350/H550)	11個
	リース品 ※取扱いがない場合、購入を検討 机、回転椅子、折り畳み椅子、シンク、収納	図示
	Pタイルの上、養生マット等下地 JAS構造用合板 (t=15) 敷き込み仕上	図示

首里城復興基金事業関連 木彫刻作業場

平面計画原案 A4：S=1/100 / 寸法単位：mm